

# 「選択」と「集中」による インフラ整備

## 視点1

安全・安心の確保

## 視点2

大都市の  
国際競争力強化

新しい建設技術

## はじめに

日建連はこれまで数度にわたり、財政制約下にあっても国民生活や経済活動の変化に対応したインフラ整備を推進していくために、「選択と集中」、すなわち国土のグランドデザインに基づいたプロジェクト選定とそこへの集中投資について提言してきました。今回も、金融危機後の新しい時代のニーズに応えるインフラ整備のあり方について昨年からの検討を進めてまいりましたが、提言を取りまとめる最終段階の3月11日、東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）が発生しました。

この未曾有の大災害が我が国にもたらした人命・財産の喪失とその後の社会混乱は、あらためて我々に日々の生活を支えるインフラの重要性について気づかせてくれました。国民の安全・安心な生活を確保するために有効だと考えられるインフラについては財源が限られている中においても、**選択と集中**の考え方にに基づき、その整備を推進していかなばなりません。

具体的には、今後も発生が予見される大地震、激しさを増す大雨・洪水等の**自然災害に対する事前の減災対策**や、人流物流を支える道路・トンネル・橋梁など高度経済成長期に整備された**インフラの老朽化に対する予防保全**への投資が求められます。その際には、持続可能な都市・地域の創造に向けて、都市の経営コスト削減や災害危険区域の土地利用規制など、**住まい方や土地利用の見直し**についての議論も必要です。

他方、我が国の成長のためには、今後のアジア各国の成長やそれに伴い形成される経済圏がもたらす恩恵を積極的に我が国に取り込んでいく必要があります。アジアの拠点としての**都市の魅力**を高め、**国際競争力の強化を図っていく**ことも欠かせません。「弱み」とされる交通・物流インフラの整備や自然災害リスクの低減を推進するとともに、「強み」とされる省エネルギー・環境配慮技術を最大限に活かした都市への進化が必要だと考えられます。

このような中で、インフラ整備に携わる我々建設会社も期待される役割に応えていかなばなりません。限られた投資を効果的・効率的に実施できるように、工期の短縮、コスト縮減、品質向上など様々な技術開発に取り組んでいるところであり、これからも、選択と集中によるインフラ整備を支えるべく企業努力を続けてまいります。

本パンフレットが、関係者並びに国民各層が国家100年の計としてのインフラ整備について、あらためて考え出すきっかけとなれば幸いです。

# これからのインフラ整備の考え方

インフラは完成してはじめて期待された効果、すなわち時宜にかなった便益供与や機会ロスの回避というメリットを提供する。事業の優先順位付けだけでなく早期完成させる視点が重要。



## 「選択」と「集中」によるインフラ整備 目次

### 視点 1 安全・安心の確保

- 【背景】 社会構造の変化とリスクの増大 ..... 3
- 1. 事前対策による効果の最大化 ..... 5
  - A. 人命と財産を守る減災対策
  - B. 戦略的な維持管理・更新
- 2. 住まい方や土地利用の見直し ..... 7
  - A. 都市経営コストの削減
  - B. 土地利用の見直し

### 視点 2 大都市の国際競争力強化

- 【背景】 都市間競争の激化 ..... 9
- 1. アジア拠点としての魅力向上 ..... 11
  - A. 弱みを克服する都市機能の強化
    - 1 ビジネス利便性の向上 ..... 13
      - A.1 ① 国際交通・物流機能の強化 ..... 13
        - a 首都圏空港の容量拡大・機能強化
        - b 集中投資による戦略港湾の整備
        - c 環状道路の一刻も早い完成およびアクセス道路の整備
    - 2 自然災害への備え
  - B. 強みを更に活かす環境都市への進化
    - 1 新エネ・省エネ技術を活かしたインフラ
    - 2 人と自然が共生する街づくり

### 新しい建設技術

- 投資を効果的・効率的にする新技術 ..... 15
  - ① 工期短縮・コスト削減
  - ② 環境配慮
  - ③ 安全・安心
  - ④ 品質・機能向上
  - ⑤ その他

- 参考：日建連のこれまでの提言 2006年以降の概要 ..... 21